



# JACET通信

一般社団法人大学英語教育学会

August 2024 The Japan Association of College English Teachers No.220

## 目次

巻頭言（小田眞幸）	1 頁	本部だより（馬場千秋）	3 頁
第 63 回国際大会を終えて（佐藤雄大）	2 頁	神保尚武先生を偲んで	6 頁

## [巻頭言]

### 今後の応用言語学と英語教育

一般社団法人大学英語教育学会会長 小田 眞幸  
玉川大学

8月には国内外で英語教育、応用言語学関連の様々な学会が開催されますが、今年もJACETの第63回国際大会（名古屋、2024）をはじめ、複数の学会に参加された方も多いと思います。さらに今年はこれまで3年に一度開催されていたAILA国際大会が、AILAの60周年記念大会として昨年のフランス、リヨンでの国際大会に引き続きマレーシア、クアラルンプールで開催されJACET会員をはじめ、日本からの多くの参

加がありました。昨年の国際大会の会長講演の中でもお話しさせていただきましたが、JACETは1984年に日本を代表する応用言語学の団体としてJAAL in JACET（日本応用言語学会）を組織し、大学英語教育に限らず、日本における応用言語学研究の発展と普及のために努力してまいりました。1999年にアジアで最初となるAILA国際大会を早稲田大学で開催して以来、英語以外の言語、言語教育以外のテーマを扱

う研究も次第に増え、JACETの国際大会やJAAL in JACET 学術交流集会における発表も少しずつですが増えてまいりました。「JACETはその名前の通り大学英語教育に集中して活動するべきである」という意見と「大学英語教育研究は応用言語学の一分野であり、現状に即して応用言語学の広い範囲に対応できるようにすべきである」という意見を会員の皆様からお聞きます。これらは一見真っ向から対立しているようにも見えますが、変化を続ける応用言語学そして大学英語教育の実態をつねに把握しながら会員のもつ知識、経験を有効的に活用し、研究、教育活動の促進の手助けとなる組織として今後JACETが成長できればと感じております。会員の皆様のさらなるご協力をよろしくお願いいたします。

**第 63 回国際大会を終えて**  
JACET 副会長  
佐藤雄大 (名古屋外国語大学)

第 63 回国際大会 (名古屋、2024) は、台風 10 号の影響下で大幅な日程変更 (初日午前プログラムと最終日全日中止) となり、本来発表を予定されていた方々も交通機関の障害から発表ができなくなるなど、大変な状況でしたが、足元の悪い中多くの方々に参加していただき、大会を無事終えることができました。今回の大会は、JACET の新しい国際大会の開催方法である「ブロック制」となって初めての国際大会として、西日本ブロック (中部支部、関西支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部) と本部との共同運営で 8 月 28 日～30 日 (予定変更で実際は 8 月 28 日午後～29 日開催)、愛知大学名古屋キャンパスを会場に開催されました。「高等教育における英語教育の立ち位置を考える (Positioning ELT in Higher Education)」をテーマとし、Heath, Rose 先生 (University of Oxford)、Joo-Kyung, Park 先生 (湖南大学、韓国) を基調講演者としてお迎えし、とても盛況に終わることができました。ただ最終日に予定していました馬場哲生先生 (東京学芸大学) の基調講演は中止せざるを得ず、次の機会にあらためてお願いしたいと考えています。

はじめに触れましたように 2021 年から協議を重ねてきました国際大会の開催方法が、昨年度「ブロック制」と決定し、本年度から東日本ブロック (北海道支部、東北支部、関東支部) と西日本ブロックが隔年で本部と共同して運営されることとなりました。この新しい開催方式は西日本ブロックからスタートすることとなり、今年度の会場校として愛知大学を調整していただいた中部支部には、鎌倉義士支部長をはじめ多くの支部会員の先生方に、準備段階から大会期間中までお世話になりました。同じく関西支部には 2 月から本格化したプログラム編成で準備段階の重要な作業

を担当していただきました。また大会期間中、賛助会員の皆様の調整やスタンプラリーの実施などでは中国・四国支部に、準備段階から大会開催中までの長い期間、海外及び国内の提携学会との連携を九州・沖縄支部にご担当いただきました。

以上のように本年度から新しくスタートした「ブロック制」は、まだまだ試行錯誤の段階ではありますが、今年度担当していただいた支部の皆さまに積極的に協力いただき、少しずつ運営分担の体制を作ることができました。東日本ブロック担当となる来年度の第64回大会は引き続き多くの皆様に参加していただけるように準備を開始していきたいと考えています。

## 本部だより

代表幹事 馬場千秋 (帝京科学大学)

いつも JACET の活動にご協力いただき、ありがとうございます。本部からは、今年度8月以降の主な行事予定(7月末現在)、および6月16日(日)にオンラインで開催されました2024年度定時社員総会についてご報告いたします。

<2024年8月以降の行事予定>

8月

11日(日): AILA EBIC business meeting (クアラルンプール、マレーシア)

11日(日) - 16日(金):

AILA World Congress (クアラルンプール、マレーシア)

27日(火): 第3回理事会(愛知大学名古屋キャンパス)

28日(水) - 30日(金):

JACET 第63回国際大会(名古屋、2024)

28日(水): JACET 褒賞授賞式(愛知大学名古屋キャンパス)

29日(木): 会員総会(愛知大学名古屋キャンパス)

31日(日): 『JACET 通信』220号

(日本語、Web版) 発行

9月

21日(土) - 22日(日):

32nd MELTA International Conference

(Universiti Malaya, Kuala Lumpur, マレーシア)

10月

12日(土):

ALAK 2023 International Conference

(Seoul National University, Seoul, 大韓民国)

15日(火) - 31日(木):

2025-2026年度社員選挙

23日(水) - 25日(金):

70th TEFLIN International Conference (Universitas Pendidikan Indonesia、インドネシア)  
 (未定) :  
 PKETA 2024 International Conference (未定、大韓民国)

11 月  
 8 日 (金) -10 日 (日) :  
 ETA-ROC 33rd International Symposium and Book Fair on English Teaching (Chien Tan Overseas Youth Activity Center、台湾、台北)

15 日 (金) -18 日 (月) :  
 The 50th JALT International Convention and Materials Exhibition (静岡コンベンションアーツセンター グランシップ)

12 月  
 1 日 (金) : 『JACET 通信』 221 号  
 (日本語、印刷版および Web 版) 刊行

7 日 (土) : 第 6 回 JAAL in JACET (日本応用言語学会) 学術交流集会 (京都、2024) (立命館大学 衣笠キャンパス)

15 日 (日) : 第 4 回理事会 (未定)

1 月  
 (未定) : Thailand TESOL 44th International Conference (未定、タイ)

2 月  
 上旬 : 『紀要』 69 号刊行

3 月  
 1 日 (土) : 『JACET 通信』 222 号  
 (英語、Web 版) 発行  
 (未定) :  
 第 6 回理事会 (JACET 事務所/オンライン)

22 日 (土) :  
 第 12 回英語教育セミナー (大阪、2024) (関西外国語大学中宮キャンパス)

31 日 (月) : 『JACET International Convention Selected Papers』 11 号発行

(未定) : 『JAAL in JACET Proceedings』 7 号 (Web 版) 発行  
 (未定) : RELC 59th International Conference (SEAMEO Regional Language Centre、シンガポール)

今年度は 2 年に一度の社員選挙です。10 月に投票期間となりますが、4 月に郵送した文書でお知らせいたしましたように、ウェブでの投票に変更となります。詳細については、追ってお知らせいたします。

また、2024 年度に本部で計画しております行事は、対面にて開催をする予定です。会員の皆様の交流の場となりますことを願っております。

=====

一般社団法人 大学英語教育学会  
 2024 年度定時社員総会 議事録

日時 : 2024 年 6 月 16 日 (日)  
 14 時 00 分 ~ 15 時 00 分  
 会議場 : JACET 事務局 / オンライン  
 (Zoom 会議システム)

総社員数 : 73 名  
 出席社員数 : 57 名  
 内訳 本人出席 37 名  
 委任状出席 20 名

よって『定款』第 18 条および第 20 条の規定の定足数以上を充足

(\* 第 18 条および第 20 条による過半数は 37 名)

陪席者 : 2 名  
 議長 : 馬場千秋  
 議事録署名人 : 金丸敏幸、大矢政徳  
 議事録作成者 : 大矢政徳

#### I. 開会

馬場千秋法人事業委員会担当理事より、定款所定の定足数を満たした旨の報告があり、社員総会の開会が

宣言された。また、本日開催の社員総会につき、Zoomによるオンライン会議のシステムを用いて開催する旨の宣言がなされた。なお当該システムは、出席者の音声と画像が即時に他の出席者に伝わり、適時適格な意見表明が互いのできる仕組みとなっていることが確認された。

## II. 会長挨拶

小田眞幸会長より挨拶があった。挨拶に先立ち、6月13日に顧問・元会長の神保尚武先生が亡くなられたことのご報告があった。

## III. 議長選出

小田眞幸会長が議長の選出について諮ったところ、議長に馬場千秋氏が選出された。

## IV. 議事録署名人選出

議長が議案審議に先立ち、議長の他の議事録署名人2名について、金丸敏幸氏と大矢政徳氏の両名を指名したい旨を述べたところ、異議なく可決された。

## V. 審議案件

### 第1号議案 会員異動状況報告の件

馬場千秋法人事業委員会担当理事より、2023(令和5)年度会員異動状況について報告があり、可決された。

### 第2号議案 2023(令和5)年度事業報告・収支決算の件

#### 1. 2023(令和5)年度事業報告

馬場千秋法人事業委員会担当理事より、2023(令和5)年度事業報告の説明があり、下記1～6号事業がすべて可決された。

(1) 1号事業 大学英語教育及び言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

(2) 2号事業 紀要、学会誌等の出版物の刊行

(3) 3号事業 大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰

(4) 4号事業 大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関との協力

(5) 5号事業 大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究

(6) 6号事業 その他のこの法人の目的を達成するために必要な事業

#### 2. 2023(令和5)年度決算

下山幸成法人事業委員会筆頭担当理事より、2023(令和5)年度の決算報告、棚卸資産についての報告があり、可決された。

#### 3. 監事監査報告

駒田誠監事より、2023(令和5)年度の会計監査に関して、今井隆夫監事より事業監査に関して適正であった旨報告があり、可決された。

## VI. 報告

### 1. 2024(令和6)年度事業計画および収支予算

馬場千秋法人事業委員会担当理事より、2024(令和6)年度の事業計画および人事について説明があった。また、下山幸成法人事業委員会筆頭担当理事より、事業計画に基づいた収支予算について説明があった。

### 2. 現行規程等報告

馬場千秋法人事業委員会担当理事より、2024(令和6)年6月16日現在の規程、ガイドライン等について報告があった。

## VII. 閉会

以上をもって一般社団法人大学英語教育学会定時社員総会の議事を終了したので、議長は閉会を宣言した。

## 神保尚武先生を偲んで

第7代 JACET 会長の神保尚武先生（早稲田大学名誉教授）が2024年6月14日に亡くなりました。神保先生には50年間、JACET を支えていただきました。一部ではありますが、神保先生の JACET との関りをここに紹介させていただきます。

また、神保先生と関わりの深い先生方に、思い出を語っていただきました。



## 神保尚武先生 JACET 活動の軌跡

会員	1974年7月1日～2024年6月13日
理事	2000年4月1日～2005年3月31日 2008年4月1日～2015年6月21日
副会長	2005年4月1日～2010年3月31日
会長	2010年4月1日～2015年6月21日
顧問	2015年9月1日～2024年6月13日
社員	2015年4月1日～2019年3月31日

## 第7代会長 神保尚武

次いで、2010（平成22）年4月1日に神保尚武副会長（早稲田大学商学部教授）が第7代会長となり、草津の大学セミナーハウスでのセミナーを開催した。2011（平成23）年8月に「創立50周年記念国際大会」（西南学院大学）を開催し、「英語教育学大系」（13巻）（大修館書店刊）を完成させた。「一般社団法人」への移行も、森住会長から準備し、神保会長のときに実現をみた。

（小池生夫（2024）『この道をひたすらに—日本の英語教育改革—』より抜粋）

## 決して奢らずに

私が神保先生（以下、先生）と出会ってから 30 年以上の年月がたちます。最初にお話しをさせていただいたのはまだ私が 30 代前半のころ、JAAL-in-JACET の研究会が玉川大学で開催された時だったと記憶しています。博士課程を修了しまだ何の業績もない自分と、当時にご研究に加え NHK のラジオ講座の人気講師でもあった先生と同じシンポジウムでお話をさせていただくだけでも緊張しておりましたが、最後の「こういったことを続けられると先が楽しみです」とお言葉をいただき、大変うれしかったことを今でも覚えています。その後、検定教科書の編集、また JACET の大会やセミナーの運営、教育問題研究会、そして先生が会長に就任された後には理事としてつねに「リーダー」としての姿を見ながら、いろいろと学ばせていただきました。今思えば、リーダーとしての先生は「頑固」なリーダーでした。教科書の編集であっても、研究会であっても、JACET の理事会であってもずっと口にされていたことがあります。「物事に過剰反応をして大騒ぎをしてはならない」ということと（リーダーとして決定権をもっていても）「その地位にいることに決して奢ってはならない」ということ、まさに先生は様々な場面で最後まで頑固に実践されていたと思います。私も先生から学ばせていただいたことを忘れずに過ごしていきたいと思います。神保先生、ありがとうございました。

小田 眞幸（玉川大学教授、JACET 会長）

## 神保尚武先生のご逝去に際して

「神保尚武先生が亡くなられた」という悲報を受け、茫然自失の思いです。神保先生（以下、先生）には今年 3 月に小池生夫名誉会長の御本の刊行記念祝賀会でお会いしたばかりでした。先生に乾杯のご挨拶をお願いしたところ、いつも通り飄々とした様子で盃をあげていただきました。

私が初めて先生にお会いしたのは、1993 年の夏、草津のセミナーハウスで開催された群馬 JALT のイベントで、あれから 30 年も経ちました。英語教育の世界にまだ不慣れだった私が「前橋生まれです」と申し上げると、先生は「じゃあ同じ群馬県人会だね」とニコニコ笑って温かく迎え入れていただきました。

その時から、私の大学英語教員としての人生が始まりました。その活動の拠点であった JACET で、研究企画委員、代表幹事、副会長、会長といった役職を務める中で、常に先生には支えていただきました。先生の大きな心のおかげで、私は自由な活動ができたのだと心から感謝しております。

特に、2 度にわたる法人化を始め、JACET の理事会や委員会の準備作業は本当に大変でしたが、先生はいつも通りに飄々とされ、長い会議が終わると「松兵衛（時には東寿司）を予約してあるから」と嬉しそうに言われました。会議中はずうっと目をつぶっておられ、最終判断の時にのみ、「こうしましょう」とおっしゃって、また目を閉じて聞いておられたのに、「いつ予約しただろう？」と、その予約のタイミング、手際の良さにいつも驚かされました。それ以上に最初のビールが格別に美味しかったため、全ての苦労を忘れることができました。

神保先生、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

寺内 一（高千穂大学教授 学長）

「人生において、本当に必要な人とは、2度巡り会う」と言われる。師との再会、友人との再会、教え子との再会。2度目の再会が、すれ違いに終わらず、その後のお互いの人生を左右することもある。組織の一員として、新たなミッションを遂行するために、最初の出会いから再会するまでに、経験と知恵を備えた者同士が再会するように、きっと神が存在して導いてくださるのだと思う。神保先生との交誼は長く、40年に及ぶが、常に、先生は私よりも一歩先を進まれる存在であり、私の目標であった。

最初の出会いは東京書籍の検定教科書（NH）の共同編集委員会。神保先生は高校のテキストの編集委員、私は中学のテキストの編集委員。真摯に情熱を込めて発言する姿が目には焼き付いている。それ以後、「再会」は続き、NHK「リスニング・テスト」講師、NHK「基礎英語」講師、そしてJACETの活動に至る。個人としては、一流の学者であり実践家であったが、組織の中でのスタンスは、敢えて自分は前面には出ず、その代わり、JACETの将来を考え、次代のリーダーを育てるべく、複数のプロジェクトを立ち上げ、運営も含めて、それぞれのリーダーの才覚を信じ委ねた。成果は独り占めせず、関わった全ての人の労苦・貢献を公平に称えた。だから、好かれ、尊敬された。常に、我々の中に、「再会」が生じるように気遣ってくださった。

「人が真に幸福になるためには、善き人に巡り合わなければならぬ」と言われる。神保先生、貴方は、巡り合う全ての人にとって、またJACETという組織にとって、正しく「善き人」でいらっしゃいました。お疲れさまでした。そして有難うございました。安らかに眠りください。

木村 松雄（青山学院大学名誉教授）

「僕が死んだら弔辞を頼むよ」が二人の約束事だった。先を越されてしまった。

私の携帯には4月12日の伝言がまだ残っている。弱々しいが澄んだ声で、「入退院を繰り返すのはつらい」と。それ以降、音信が途絶えた。

思えば、40年ほど前、高校英語検定教科書（東京書籍）の第1回編集会議が彼との出会いだった。同じ年の生まれとは思えない、落ち着きとオーラを放っていた。しばらくして、NHK基礎英語の講師となった。「ラ・マンチャの男」をテキストにすると行って張り切っていた。そして、ソフトな美声と滑らかな発音が電波に乗り、全国に流れた。

25-6年前から、教育問題研究会で一緒に活動するようになった。JACET会長の重責を果たしながら、月に一度の研究会には必ず参加した。その後の飲み会は楽しい思い出。癌で胃を全摘出していたにもかかわらず、時には羽目を外した。

研究活動でのハイライトは、2014年2月の欧州現代言語センター（オーストリア・グラーツ）でのシンポジウムだ。仲間と5年余をかけて開発した『言語教師のポートフォリオ（J-POSTL）』を、原作のEPOSTLの編者をはじめ欧州の研究者の前で披露した。記念写真の前列中央に、誇らしげな笑顔が原著者と並んでいる。

6月14日に奥さんから訃報を受け取った後、心に穴が開いた。しかし、私にとってもあの世は、遠い先のことではなく、すぐに来るかもしれない。近いうちに、あちらで好きな酒を酌み交わそう。その想いを今後の生きる支えにすることにした。

久村 研（田園調布学園大学名誉教授）



## 編集後記

会員の皆様、厳しい残暑が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。『JACET 通信』220号をお届けいたします。お忙しい中、ご寄稿いただきました先生方には心より御礼申し上げます。

私がJACETに入会したのは2007年だったと思います。安田女子大学で開催された国際大会に参加して、規模の大きさと参加者の多さに驚きました。2014年に広島市立大学で国際大会が開催された時は、実行委員として大会の運営に携わらせていただきました。大変でしたがとても充実した時間を過ごすことができました。

愛知大学名古屋キャンパスで開催された第63回国際大会の運営に関わられた先生方、本当にお疲れさまでした。台風10号のため私は2日目のお昼で失礼させていただきましたが、質の高い研究に触れることができました。今年度からにブロック制での実施となり、これまで以上に準備が大変だったのではないかと思います。体調を崩されないようにご自愛ください。

(岩中)

## 編集：法人事業委員会（『JACET 通信』担当）

理事（筆頭） 下山幸成・東洋学園大学

理事・委員長 岩中貴裕・山口県立大学

理事 馬場千秋・帝京科学大学

理事 金丸敏幸・京都大学

理事 山口高領・秀明大学

副委員長 田口悦男・大東文化大学

副委員長 岡崎久美子・仙台高等専門学校

Gilner, Leah・愛知大学

伊藤健一・北九州市立大学

藤井聡美・北海道大学

下内充・中部学院大学

吉田諭史・近畿大学

森谷浩士・岡山大学

## 『JACET 通信』第220号

2024年8月31日発行

発行者 一般社団法人 大学英語教育学会 (JACET)

代表者 小田 眞幸

発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町 55

電話(03) 3268-9686 FAX(03) 3268-9695

<https://www.jacet.org/>